



GIRL meets GIRL College 報告書

2014年 前期

主催:



ジョイセフ
JOICFP

途上国の妊産婦と女性を守る

GAL LABO

協賛:

DADWAY®



株式会社ACRO 株式会社集英社
公益社団法人誕生学協会



GIRL meets GIRL College 初講座を終えて

“meets” ～出会う・つながる～からエンパワーメントへ

GIRL meets GIRLプロジェクトを電通GAL LABOと立ち上げたのは2011年3月8日（国際女性デー）。それから3年半が経過しようとしています。

この間に日本全国のファンに届けたチャリティーピンキーリングの数は、およそ9万個。1個につき100円（一部200円）が途上国や東北の女の子支援活動に寄附されるという2色で作られたアクリル製のリングです。支援活動への寄附総額は約1000万円となりました。

「1つの色は自分のため、もう1つの色は海の向こうの彼女のため…」

開発途上国の女の子をもっと身近に感じてほしい…と認知・普及を目的として始まったこのピンキーリングが、気軽にできる「チャリティ（社会貢献）」としてここまで話題となる日が来るとは、想像もしていなかったことでした。

カワイイ！安い！楽しい！オシャレ！

と、若い女の子に反響を呼び、オンラインの口コミでここまで広がったチャリティーピンキーリング。予想以上に広がったのは、大変うれしいことですが、果たしてこのリングを手にした女の子に、途上国の女の子の現状を知り共感や関心をもってもらえたのだろうか…。

そんな疑問がふつつつと沸いてきて、もう一度GIRL meets GIRLプロジェクトを立ち上げた目的、原点に立ち返ろうと、GAL LABOメンバーと『世界女の子白書』（木楽舎）を2013年秋に出版した経緯があります。

この白書の出版直後に、世界経済フォーラム（World Economic Forum）が発表した「世界男女格差報告 2013」（The Global Gender Gap Report 2013）を目にしました。これは、男女の格差を指数化し、世界136カ国を比較・順位付けしているもので、上位ほど男女の格差が少ないことを示しています。

世界136カ国中、日本は105位で、前年の101位、前々年の98位に続いてさらに下がっていました。

日本の実態に衝撃を受けた私たち。

私たちが女の子白書で紹介した途上国よりも、日本のランクがはるかに低い…。日本の女の子の実態の方がもっと危機的!なのでは？

GIRL meets GIRLプロジェクトを運営する私たち全員が感じたこと。

**途上国の女の子と、日本の女の子。
世界を知ること、自分自身を見つめ直してほしい…**

そんな想いがますます強くなりました。

GIRL meets GIRLプロジェクト発
GIRL meets GIRL Collegeは、

そんな私たちの想いから立ち上がった企画です。

自らも専門家として、起業家として、多方面で活躍する傍ら、ジョイセフの活動を日頃より積極的に広報・応援くださっている女性エキスパートの方々が、私たちの想いに共感し、カレッジの目的・趣旨に賛同。二つ返事で「講師」としての登壇を快諾してくださいました。

まさに、ガールとガールが出会う場、つながる場、刺激し合い、新しい一歩を踏み出す場になれば!と講義の流れ、コンテンツをゼロから企画しました。特に意識したのは以下の3点でした。

- ・女性の性・身体とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）を知る。
- ・自分で考え、選択し、決断する力、リテラシーをつける。
- ・自分の夢を実現するためのポジティブシンキング、クリティカルシンキング術（力）をつける。

講義後に回収したアンケートでは、受講生と13名の講師陣のほとんどが、ポジティブな感想を述べてくれました（P22・24参照）。

しかし、GIRL meets GIRL Collegeを実施するにあたり、

「途上国支援をするジョイセフが、なぜ、日本の女性を対象にカレッジを開催するのか？」

という声も、内外から聞こえてきました。第一弾を終えて、あらためて、この日本（女性の平均寿命が世界最高・妊産婦死亡率が最低レベル、女子の義務教育就学率世界トップ、男女格差ランキング105位にダウン）の今だからこそ、GIRL meets GIRL Collegeを開催する意義があると感じます。

「世界中のすべての女性たちに、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを」

日本のNGOジョイセフが目指すミッションを達成するためにも、日本の女性たちが、まず、自らのリプロダクティブ・ヘルス/ライツを守り、産む・産まない、いつ産むか、何人産むかを選択し、決断できる力を身につける必要があります。リプロダクティブ・ヘルス/ライツは、世界中のすべての女性たちが享受すべき、重要な「人権」であると認識することが必要です。

それができると、日本から途上国の女の子支援への理解は広がり、世界のすべての女性たちにリプロダクティブ・ヘルス/ライツは届くのだと、私たちは信じています。

GIRL meets GIRL College は始まったばかりですが、GIRL meets GIRLプロジェクトの重要コンテンツのひとつとして、2014年には、後期のカレッジを10月から開催します。引き続き、GIRL meets GIRLプロジェクトへの、みなさまのご理解と温かい応援をどうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人ジョイセフ 広報グループ 小野美智代

GIRL meets GIRL College について

03

★タイトル

GIRL meets GIRL College (略称:GmGC)

★カレッジ概要

これから「未来」を産み育てていく女の子たちをエンパワーし、国際社会で通用する次世代の女性リーダーを育成する、女の子のための学びの場。

★目的

国内におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(RH/R)の普及、および支援者の拡大



開催概要

- 【日時】 2014年 5月19日(月)～ 7月7日(月) 毎週1回 全8回
18:00～20:00 (120分)
【講義90分 + 世界の女の子ストーリー10分 + 協賛企業ワークショップ 10分 + 質疑応答など】
- 【場所】 保健会館新館7階 ジョイセフセミナールーム
- 【ターゲット】 女子学生および20～30代の女性
- 【受講料】 全8回受講で12000円 (1回ごとの受講は2000円)
- 【主催】  ジョイセフ
JOICFP 
途上国の妊産婦と女性を守る
- 【特典】 ◆チャリティーピンキーリングプレゼント (全8回、各回違うカラーのリング)
◆『世界女の子白書』プレゼント (初回のみ)
◆修了証授与、インターンシップの機会提供 (6回以上受講者のみ)
- 【寄附】 受講料・協賛金はすべてジョイセフの途上国支援に活用



04

カリキュラム ※敬称略

	開催日	リングテーマ	テーマ	内容	講師	女の子ストーリー	協賛企業
1	5/19 (月)	 Birth	Birth 命の誕生について学んでみよう	◇誕生学から、命の誕生とは？ 自分自身の意義とは？ を考えてみよう	大葉ナナコ	GmG開催にあたって 広報グループ 小野	ダッドウェイ 誕生学協会
2	5/29 (木)	 Health	Health 知っておきたい、身体のこと ～産む？産まない？～	◇女性の月経や身体のリズム ◇自分を守るための知識 ◇子供を産む？産まない？につい て考えてみよう	やまがたてるえ 染矢明日香	ナウル・ウガンダ・スワジ ランド・レソト 思春期ワークショップ参 加者9名	
3	6/6 (金)	 Family	Family 出産を考えよう ～データで知る本当は怖い性の実態～	◇誰も教えてくれない性のことを 考えてみよう ◇卵子の老化	宋美玄	ザンビア 企画マーケティンググル ープ 船橋	典雅
4	6/10 (火)	 More Happy	More happy 自分で決めるキャリア&ライフデザイン講 座	◇女の子の「幸せ」について ◇5年後・10年後のなりたい自分 を考えてみよう	大崎麻子	ネパールなど 広報グループ 甲斐	ダッドウェイ 集英社
5	6/18 (金)	 Love	Love 心に響くことをやりなさい	◇ポジティブシンキングの方法と は	ユール洋子	ドリームブラン ワークショップ	
6	6/27 (金)	 School	School 身につけたいクリティカル・シンキング術	◇5年後の自分をデザインする	狩野みき	タンザニア 企画マーケティンググル ープ 柴	
7	7/1 (火)	 Work	Work 知っておきたい、仕事のこと ～「子連れ出勤」「起業」をするまで～	◇女性が子育てしながら必要なこ とって？	光畑由佳 青木愛	タンザニア 開発協力グループ 矢口	
8	7/7 (月)	 Hope Tomorrow	Hope Tomorrow ギャルラボ誕生秘話 ～世界女の子白書ができるまで～ 作ってみようMY Dream Plan	◇GIRL meets GIRL Project最新情報 ◇ライフデザイン・シートの作成 ◇MY Dream Plan発表 ◇修了式	電通ギャルラボ 浅村里紗(ジョイセフ)		

※ ACROは全ての回でサンプルのご提供をいただきました。

事前告知

★時事通信からの配信により、地方紙において告知されました



★ジョイセフ公式サイト、Facebookからも発信しました (P23参照)

講師紹介

※登壇順、敬称略

第1回

大葉ナナコ



公益社団法人誕生学協会代表理事。
バースコーディネーターとして、プレママ・ママのメンタルサポートやライフスキル、妊娠準備、出産準備、楽しい育児のコツを発信する他、「誕生学®」という、生まれてきた自分のいのちの力を知り、自己肯定感を高めるプログラムも主催。

第2回

やまがたてるえ



助産師、バースセラピスト、母の樹代表、NPO法人JASH理事。
「すべての妊娠、出産、育児が笑顔のもとで行われる」という思いをライフワークに活動中。著書に『13歳までに伝えたい女の子の心と体のこと』『15歳までの女の子に伝えたい自分の体と心の守り方』がある。思春期前後のお子さんを持つ保護者向けに講演なども行っている。

第4回

大崎麻子



国際協力・ジェンダー専門家、プラン・ジャパン理事。
コロンビア大学大学院在学中に長男を出産。国連開発計画(UNDP)に就職し、途上国の女性支援に従事した。在職中に長女を出産し、子連れ出張も経験。現在はフリーの専門家として、国際協力や東北の復興支援に従事している。サンデーモーニング(TBS系)のコメンテーターとしても活躍中。著書に『女の子の幸福論 もっと輝く明日からの生き方』(講談社)。

第2回

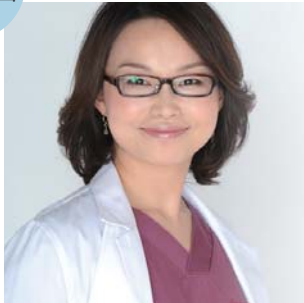
染矢明日香



NPO法人ビルコン理事長。
自身の経験から日本の望まない妊娠・中絶の多さに問題意識を持ち、大学在学中より「避妊啓発団体ビルコン」を立ち上げ、「無関心層を関心層に」をテーマに若者が参加しやすく興味関心のテーマに沿った正しい性の知識や男女間のコミュニケーションスキルの啓発イベントを数多く開催。

第3回

宋美玄



産婦人科医・性科学者。
川崎医科大学講師、ロンドン大学病院留学を経て、2010年から国内で産婦人科医として勤務。一児の母。
産婦人科はもちろんセックスに関する診療カウンセリングを行う。主な著書に『女医が教える本当に気持ちのいいセックス』(ブックマン社)『内診台から覗いた高齢出産の真実』(中公新書ラクレ)など。

第5回

ユール洋子



公認NLP(神経言語プログラミング)トレーナー、公益社団法人誕生学協会理事、一般社団法人i愛NLP協会代表理事。
コミュニケーション力、女性力、母親力をテーマに講師として活躍中。著書『ベストな自分を創り出すNLP心理学』『娘を幸せにするブックガイド』、訳書『100%人生が変わる1%のひらめき』『NLP子育てコーチング』他。

講師紹介

※登壇順、敬称略

第6回

狩野みき



慶應義塾大学、聖心女子大学、ビジネス・ブレイクスルー大学講師。
グローバル水準の考える力・作文力・プレゼン力のスクール「Wonderful Kids」主宰。子どもの考える力教育推進委員会代表。20年にわたって大学等で「考える力」と英語を教える。著書に『世界のエリートが学んできた「自分で考える力」の授業』(日本実業出版社)『自分の考えを「伝える力」の授業』(日本実業出版社)『知られざる英会話のスキル20』(共著、DHC)『プログレッシブ英和辞典』(小学館)など多数。

第7回

光畑由佳



有限会社モーハウス代表取締役。
(株)パルコでの美術企画、建築関係の編集者を経て、1997年の2人目の出産後、電車の中での授乳体験を機に、「産後の新しいライフスタイル」を提案するため授乳服の製作を開始。お産・おっぱいをサポートする「モーハウス」の活動を始める。女性、企業、学生に向けての講演も多数。

第8回

浅村里紗



ジョイセフ 人材養成グループ プログラム・マネージャー。
1984年にジョイセフに入団。中南米やアジア地域の数々の人口・リプロダクティブ・ヘルス分野の支援プロジェクトを手掛け、現在、途上国の妊産婦の健康改善、思春期保健、NGOの能力強化等の研修事業のマネージャー。3人の娘の母。

第7回

青木愛



マタニティのセレクトショップ、「VIRINA maternity/ヴィリーナ マタニティ」のオーナー兼バイヤーで3児の母。
元ELLE Japon、25ansといった女性誌編集者という経歴を活かし、世界中の最新マタニティウェアを発信する。2012年より石巻の女性の雇用を促進させるためのプロジェクトも始動。

第8回

電通ギャルラボ



プランニングチーム。
ギャルのマインドとパワフルな生き方を活用し、企業だけでなく日本社会の活性化までを目指す、女の子専門プランニングチーム。
ジョイセフと共に「Girl meets Girl Project」を立ち上げ、「チャリティーピンキーリング」、『世界女の子白書』(木楽舎)を企画製作。

講義レポート - 第1回 - 講師：大葉ナナコ

「Birth - 命の誕生について」

初回となるこの日は、ジョイセフ広報チーフ小野よりGIRL meets GIRL Collegeの目的と意義についての共有から始まりました。次に、性教育という言葉でなく、命の誕生を語りつなぐ教育として「誕生学」を産んだ、公益社団法人誕生学協会代表理事で、バースコーディネーターとして活躍中の大葉ナナコさんにご登壇いただき、「Birth-命の誕生について」と題し、命を喜び合うことの大切さについて講義をしていただきました。

日本は世界に誇る長寿国であり、先進国の中でも、妊娠・出産による女性の死亡率（妊産婦死亡率）および乳児の死亡率が世界トップレベルで低い数値を保ち続けています。しかしながら、妊娠・出産・育児に関し、決して肯定的とは言えない情報が氾濫し、自分の誕生を含めて「良かった!」と感じる機会はあまり多くないのも現実です。

大葉さんは命の誕生のお話を通し、「すべての人が安心、自由、自信を感じながら生きるべき」ということを、時に力強く、時に優しく受講生たちに伝えていきました。無限の神秘に満ちた命の誕生からみえてくるもの。それは、生まれた命に対してはもちろん、支えてくれた家族、そして何より自分自身への「ありがとう」の気持ちなのだと言います。この世に生まれてきた自分をまずは肯定することこそが、やがて生きていくための自信となり、ポジティブに思考していく力になるのだと。

「この講義を通じ、自分を大切に思う気持ちが芽生えてくれたら嬉しい。これから続くカレッジの基盤となる価値観に、栄養になれば...」との言葉で講義を締めくくった大葉さん。話を聞く受講生たちの輝く笑顔とともに、明るくそしてパワフルな講義は盛況に終わりました。

講義後は、協賛企業として、ハワイ生まれの抱っこ紐「エルゴベビー」正規代理店として知られる株式会社ダッドウェイが登場し、育児の楽しさを伝えるため、「快適な抱っこのしかた」について実際にエルゴベビーを使って楽しく教えていただきました。



講義レポート - 第2回 - 講師：染矢明日香 やまがたてるえ

「Health - 知っておきたい身体のこと」

最初に登壇したのは、ジョイセフが国際協力機構（JICA）の委託事業として行う思春期保健ワークショップに参加している海外からの研修生たち（ナウル、ウガンダ、スワジランド、レソトの4カ国から9名）。彼らの国では、月経について前もって誰かに教えてもらう機会がなく、ある日突然始まってびっくりするなど、普段はなかなか聞くことのできないお話を伺いました。

本講義には、若者への正しい性の知識の啓発活動を行うNPO法人ピルコン理事長・染矢明日香さんと、助産師であり、NPO法人JASH理事として思春期前後の女の子と保護者向け性教育に力を入れるやまがたてるえさんにご登壇され、すべての女性に共通する月経のしくみや、今の日本の女の子の性の実態について、望まない妊娠を防ぐための正しい知識、そして自分の心と体を愛するために必要なことなどを話していただきました。

染矢さんは自分の体を知るために必要な知識として、月経のリズムを改めておさらいし、望まない妊娠を防ぐために避妊をパートナー任せにしない重要性を訴えました。

やまがたてるえさんは、約1カ月周期でやってくる月経を億劫、面倒くさいと感じている女性も多いことにふれ、ほんの少し考え方を变えるだけで、月経がとても楽しくなることなどが紹介されました。

染矢さんとやまがたさんに共通するのは、性の話はもっとオープンに積極的に、楽しくするべきという立場。街には男性視点の偏った性情報があふれていますが、正しい性情報を読み解く力をつけて、信頼関係があって初めて成り立つセックス（コミュニケーション）をしてほしいという持論を展開しました。

講義後は、やまがたさんと染矢さんに、受講生からの質問にその場で答えていただく時間に。性について明るく語るお二人に刺激を受け、女性として自信を深め、自分も明るく性を語れるようになりたいという受講生たちから積極的な質問が飛び交いました。



講義レポート - 第3回 - 講師：宋美玄

「Family - 出産について」

第3回目のカレッジは、企画マーケティンググループの船橋によるザンビアの妊産婦支援プロジェクトの話から始まりました。ジョイセフが現地に建設した出産予定日2週間前から滞在できるマタニティハウス（出産待機ハウス）の支援活動や、地域の人々に対して正しいRH情報を啓発するために育成を行うコミュニティ・ヘルス・ワーカー（母子保健推進員:SMAG）について紹介しました。

続く講義では、テレビや雑誌でも活躍されている宋美玄（ソン・ミヒョン）さんが登壇し、「Family-出産について」と題して、日本の出産事情について産婦人科医の見地からお話いただきました。

宋さんが講義の中で特に強調したのは、出産の安全性。世の中には、自然分娩をもっとも尊いものと考え、帝王切開や医療による介入を施した出産に対し、負のイメージを持つ方も少なくないと言います。しかし、出産は身体が勝手に行うこと。プランを立てていても、その通りに運ぶことは難しいのが現実です。頑張れば何とかなるものでもないということを理解し、帝王切開だから残念なお産という考えはおかしいということを訴え、安全に出産することが一番大事だということを伝えました。

また、最近よく話題に上る「卵子の老化」にも触れ、「それはそれで確かに正しいが、30代前半ではほとんど問題にならない。出産の高齢化に無責任に警鐘を鳴らしながら対策については全く触れることのない、メディアや世間のネガティブキャンペーンに惑わされないで」と強調しました。

確かなデータに基づきながらも、笑いをふんだんに散りばめたウィットにあふれる宋さんのお話に、受講生たちから終始笑いが尽きない講義となりました。

宋さんの講義の後は、協賛企業の株式会社典雅（TENGA）のプレゼンテーションタイムへ。広報担当の箕浦さんと伊藤さんが女性のための「セルフプレジャーアイテム（商品名:iroha）」を持参して、その使い方についてわかりやすく説明してくれました。



講義レポート - 第4回 - 講師：大崎麻子

「More Happy - 女の子の幸福論」

第4回目は講義の前に、広報グループの甲斐が「ジョイセフが出会った女の子たち」と題して、ザンビア、ネパール、インド、アフガニスタンなど、世界の女の子たちについてそれぞれの小さなエピソードを紹介しました。世界には、女の子だからという理由でさまざまな制約の中で暮らす女性がたくさんいます。しかし、私たち日本の女の子たちはどうなのか。見えない障壁の存在を提起する形で、大崎麻子さんの講義に移りました。

大崎さんは国連職員として貧困と飢餓をなくす活動に従事し、現在はフリーの国際協力・ジェンダー専門家として活躍されています。今回はご自身の著書『女の子の幸福論』でも述べている、女の子へのエンパワメントについてじっくりと丁寧に講義していただきました。

エンパワメントには3つの欠かせないステップがあります。

「自信をつけること」「力をつけること」「連帯すること」

大崎さんはネパールでの事例をあげ、女性へのエンパワメントが、地域、そして次世代へと着実に波及する様子を示すことで、その効果を示しました。続いて、「日本の女の子にもエンパワメントが必要がある」と語り、まずは健全な心と身体を持ち、自己肯定感を養い、物事の本質を見極める判断能力、生きていくための経済力を身につけることが必要と訴えました。

大崎さんの講義後は、協賛企業である株式会社ダッドウェイの顧客相談窓口マネージャー関さんが登壇し、自身の経験談として仕事と家庭の両立についてお話ししていただきました。4人のお子さんのお母さんでもある関さんの、「育児も仕事も100でなくて良い。合わせて100を目指そう」という言葉に、元気をもらったという受講生たち。20代の受講生からは「いつか訪れる未来に役立てたい」という声も聞かれ、子どもを産み育てながら、働くことに前向きになったと好評を博していました。



「Love - 心に響くことだけをやりなさい!」

NLPトレーナーのユール洋子さんにご登壇いただきました。いつもとは趣を変えて、会場には椅子だけをセッティングして、体を使ったワークショップ形式で、「ポジティブシンキングとは何か?」についてお話してくださいました。

コミュニケーション心理学とも実践心理学とも言われる、NLP（神経言語プログラミング）。耳慣れない受講生たちに、簡単に言い換えるならば、「脳の取り扱い説明書のこと」と、ユールさん。「どんな考えをすれば、夢が実現するのか」を、脳が身体に及ぼす影響の仕組みを理解することで、よりよい未来をイメージし、そしてそれに近づくコツについてわかりやすく説明していききました。

実際に体を動かすいくつかのワークを通じて、頭で考えたことや耳にした言葉に敏感に反応する体の動きを体験した受講生たち。私たちの脳と行動がいかに密接に影響を及ぼ合っているかについて、実感をもって理解していました。

「行動に影響を与えるのが脳ならば、脳に影響を与えているのは言葉です。自分の言葉を一番聞いているのは、他でもない自分自身」とユールさん。だからこそ、ポジティブな言葉がけを常に意識し、よりよい未来へ導くイメージを明確にすることが、夢に近づく第一歩になると伝えました。

最後にユールさんは、アインシュタインの「イマジネーションは人生に現れるアトラクションの予告編」という言葉を引用し、「なりたい自分をイメージし、ありありと予告編を描いてみましょう!脳は必ずあなたをサポートし、辿りつきたい場所へ導いてくれます」とこの日の講義を締めました。

講義後はユールさんのワークショップで得たばかりのポジティブなパワーがみなぎる中、7月7日のGmGC最終回にて、受講生による「ドリーム・アクション・プラン」の発表につながるワークとして、グループディスカッションも行われました。



講義レポート - 第6回 - 講師：狩野みき

「School - 身につけたいクリティカル・シンキング術」

はじめに、ジョイセフの企画マーケティンググループの柴が教壇に立ち、買春やドラッグによる若者たちへの影響が深刻になっているタンザニアのプロジェクト地域における活動を紹介。若者支援（エンパワメント）の重要性を訴えました。

続いて、狩野さんによる講義「身につけたい クリティカル・シンキング術」へと移りました。

クリティカル・シンキングとは、一人よがりではない根拠に基づく意見を持つための思考法のことを指します。講義では、実際に受講生に「考え抜く作業」をしてもらい、物事をじっくりと注意深く吟味する方法について学びました。

考え抜くためのステップは以下の通り。

- ① 用意されたA4の紙に、宿題として考えてもらってきた「5年後にしたいこと」を一文（肯定文）で書きこみます。
- ② 何のために①のことがしたいのか。目的を書きます。
- ③ ②の目的を達成するための手段を考え、5つ、6つ書きます。
- ④ ③番リストを実現したらどうなるか。シミュレーションしながら、起こりうる最善と最悪のシナリオをそれぞれに考えていきます。
- ⑤ 膨れ上がったリストを一つひとつ見直し、実行する自信のないものを手段ごと消していきます。

このワークでもっとも大切なことは、誰にも気兼ねすることなく、本当の自分に正直に向き合うこと。「とにかくじっくりと自分と真正面から向き合うことが大切」との言葉どおり、狩野さんがプロセスの説明をする以外は、ただただ自分と向き合う時間に当てられました。受講生全員が紙に向かい、ひたすら自分の考えを書き綴る作業が続きました。

90分間、じっくりと自分と向き合う作業に没頭した受講生たちは、自分自身が見出した答えに驚いたり、納得したり。講義後の会場には心地よい疲労感と共に、充足感が満ちていました。



講義レポート - 第7回 - 講師：青木愛 光畑由佳

「Work - 知っておきたい、仕事のこと」

講義前の恒例となった、ジョイセフスタッフによるミニ講座では、タンザニアでプロダクティブ・ヘルスサービスの強化プロジェクトに携わる開発協力グループの矢口が、支援活動のことや現地の女性の働き方などについて紹介しました。

続いて行われた講義は、ヴィリーナジャパン株式会社代表取締役の青木愛さんと、有限会社モーハウス代表取締役の光畑由佳さんによる2本立て。それぞれ、起業へのきっかけや、子育てしながらのワークライフバランスなどについて、熱くお話しされました。

最初に登壇した青木愛さんは、雑誌編集者から起業家に転身した経緯や、ジョイセフと協働して行う開発途上国や東北の女性支援などについて語りました。「自分だけでなく、誰かを幸せにできる流れをつくることを思い描いて何かを成すのは、とても大切」とご自身のモットーを展開。これから起業や就職など、それぞれのカタチで羽ばたこうとしている受講生たちに、はなむけの言葉を贈りました。

次に、光畑由佳さんが登壇し、授乳服の製作・販売を手がけるきっかけになったご自身の経験や、授乳服を通して女性たちに子育て期間を積極的に楽しむライフスタイルの提案を行っていることなどについてお話されました。また、モーハウスが取り組む「子連れ出勤」にも触れ、新しい働き方の提案も行いました。

新しいことを始めることを恐れず、「育児」も「仕事」もこなし、今もなお新たな可能性を想像しながら事業を展開し続ける二人の起業家の姿に、受講生たちも大いに刺激を受けた2時間となりました。



講義レポート - 第8回 - 講師：電通ギャルラボ 浅村里紗 (ジョイセフ人材養成グループ)

「Hope / Tomorrow - ドリーム・アクション・プラン発表 + 修了式」

GIRL meets GIRL Collegeが最終回を迎えたこの日は、GIRL meets GIRL プロジェクトをジョイセフと共に手がける電通ギャルラボと、ジョイセフ人材養成グループの浅村による2つの講義の後、受講生によるドリーム・アクション・プランの発表および修了式で構成され、締めくくりとなりました。

はじめに登壇したのは、電通ギャルラボの小川愛世さん、外崎郁美さん、間野麗さん。「広告会社の私たちにできること。～チャリティのハードルを下げるミッション～」と題してお話いただきました。従来の途上国支援の効果的手法として用いられてきた、人びとの義務感、正義感に訴えかけるものとは全く発想を変え、「カワイイ」「楽しそう」から女の子の心を動かし、アクションへとつなぐことはできないかと考え、始まったGIRL meets GIRL プロジェクト。また、そこから生まれた「チャリティーピンキーリング」や女の子のための教科書『世界女の子白書』のことなど、チャリティにはまったく興味のない層を取り込む電通ギャルラボならではのユニークな仕事観が紹介されました。

続いて、ジョイセフの浅村が「ジョイセフの根っこ」と題して、加藤シヅエとマーガレット・サンガーという2人の偉大な活動家の「GIRL meets GIRL」や、ジョイセフのプロジェクトが日本の経験が散りばめられた住民主体による手法によって展開されていることなどを伝えました。

「ドリーム・アクション・プラン」の発表の前には、考えてきてもらったプランをもとに想像のピンキーリングを作るワークショップにも挑戦!グループワークを行いました。

ドリーム・アクション・プラン発表では、3人の受講生が代表してそれぞれのプランを発表。力強いプランに、拍手が湧き起こりました。

受講する女の子と途上国の女の子と一緒にエンパワーしていくことを目的に始まったGIRL meets GIRL College。それぞれに描いていた漠然とした夢が、いま鮮やかな色をつけ、スタートラインにつきました。これからは、受講生一人ひとりが自身の夢の達成に向け、誰のために、何のために、そして達成されたときの自分の気持ちを意識しながら、歩き出すこととなります。



協賛企業 ※敬称略

株式会社ダッドウェイ

★5月19日(講師:大葉ナナコ)

ーハワイ生まれの抱っこ紐「エルゴベビー」を使って「快適な抱っこのしかた」について実演

配布資料:パンフレット、カタログ

★6月10日(講師:大崎麻子)

ー顧客相談窓口マネージャー関さんによる「仕事と家庭の両立について」

配布資料:パンフレット、カタログ

受講生の声

- ー「いつか訪れる未来に役立てたい」
- ー「子どもを産み育てながら、働くことに前向きになった」



DADWAY®



協賛企業 ※敬称略

株式会社典雅(TENGA)

★6月6日(講師:宋美玄)

ー女性のための「セルフプレジャーアイテム(商品名:iroha)」について紹介

配布資料:パンフレット、iroha mini

受講生の声

- ー「かわいい!」
- ー「女性も性を謳歌していいんだ、とイメージが好転」



協賛企業（物品寄附）※敬称略

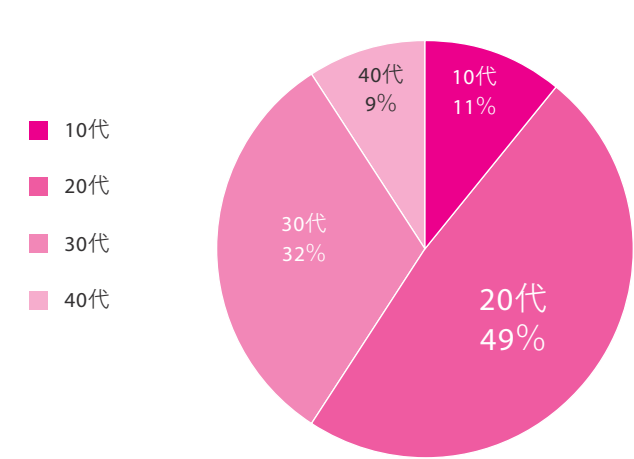
- ★株式会社集英社
ー雑誌『MORE』…………… 60冊

【MORE】コラボチャリティーピンキーリング
「More Happy」…………… 60個
- ★株式会社ACRO
ー【THREE】ローション＋巾着セット …… 150セット
- ★公益社団法人誕生学協会
ーホワイトリボンTシャツ…………… 50枚



受講者分布

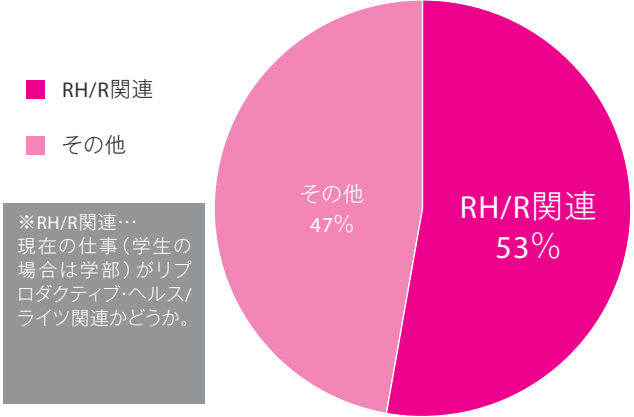
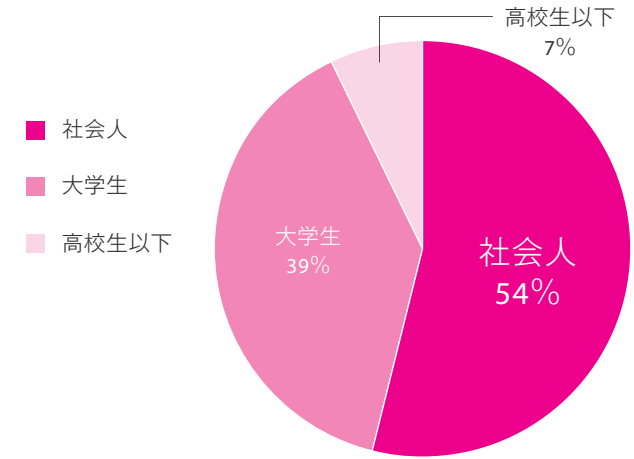
年代別



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	合計
10代	2	2	2	3	3	2	2	2	18
20代	12	13	11	12	7	11	9	7	82
30代	11	8	10	5	4	5	5	6	54
40代	2	3	2	4	1	1	1	1	15
合計	27	26	25	24	15	19	17	16	169

ターゲットである20代30代が主に受講している。

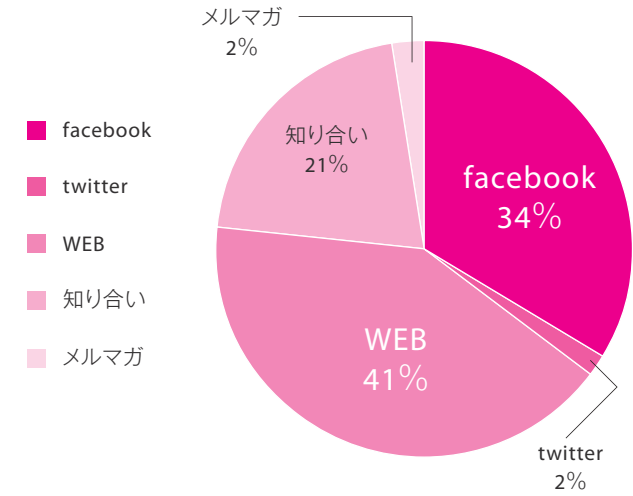
所属・職業別



※RH/R関連…
現在の仕事（学生の場合は学部）がリプロタクティブ・ヘルス/ライツ関連かどうか。

受講者の過半数が社会人。
また、現在の所属がRH/Rに関連している方が半数強を占めている。

情報元別



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	合計
facebook	9	7	10	8	5	7	5	6	57
twitter	1	2	0	0	0	0	0	0	3
WEB	9	9	8	10	9	9	9	7	70
知り合い	7	7	6	6	1	2	3	3	35
メルマガ	1	1	1	0	0	1	0	0	4
合計	27	26	25	24	15	19	17	16	169

WEBからの申し込みやSNSから情報収集が多く、もともとジョイセフの活動を知っている方が多いことがわかる。

受講者アンケート まとめ

※アンケートは任意回答。同一人物が複数回答している場合あり。

参加費について

ちょうど良い	安い	高い
70	9	5

コメント

1講座2000円は学生にとっては参加しやすい金額設定だが、社会人には安かった印象がある。価格設定は社会人と学生に分けるのも良い。

講義時間について

ちょうど良い	長い	短い
54	8	1

コメント

90分の講義、企業タイム、ジョイセフ活動報告が立て続けにあるので、休憩を入れるかメリハリのあるタイムスケジュールにするべき。

開催時間帯について

良い	ふつう	良くない
81	11	2

コメント

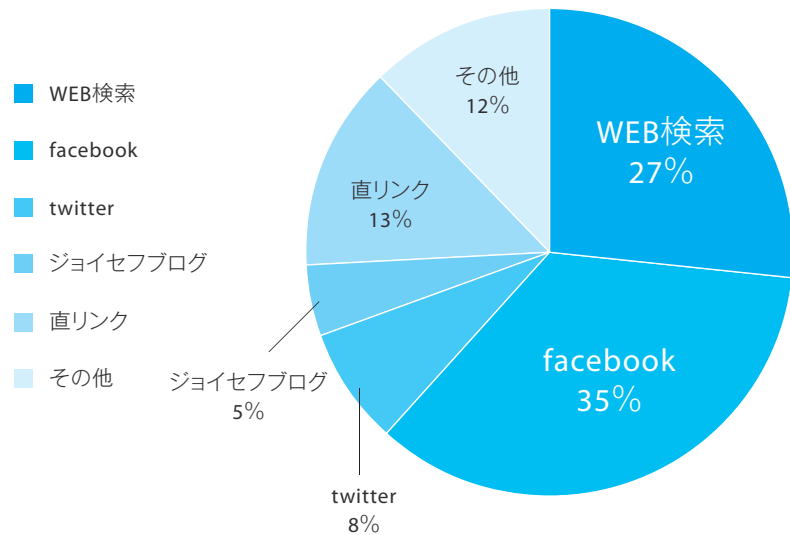
結果的には良いアンケート結果が出ているが、勤務時間または授業が終了後すぐに移動しなければ間に合わないため、できればもう少し遅い時間を希望するという人も多かった。

受講者アンケート 自由記述より

- ★これからの身の振り方に迷っていたところだったので、今まで思い描いていた目標について様々な角度から考えられたことで、自分自身の気持ちを客観視できました。本当にありがとうございました。
- ★今までのWORKING MOTHERのイメージがとっても大きく変わりました。また、出産もしていないのに、どこかで妊婦は母は(子育て中の)我慢すべきという思いが自分に強いことに気がつきました。
- ★現在も、子どもを育てながら働く女性が増えるには、日本の社会は厳しいが、その中でも多くの女性が育児をしながら働き、輝けるように努力している人々がいることを知った。もっと多くの女性に今日学んだことを広めたい。
- ★講座を通して自分の夢を自分の言葉で語る受講生の姿が素敵でした。「私なんか…」と卑下するのではなく「私だからこそできること」と誇りをもって私もこれからの人生を楽しみたいと思います。
- ★自分の感情を整理できてよかった。
- ★出産・月経・誕生にポジティブになった。
- ★新しいアイディアを得ることができ、具体的に考えることができてよかった。
- ★途上国のジェンダーの経験のお話がきけて嬉しかった。

延べアクセス数：4639件

WEB検索:1246件
facebook:1616件
twitter:366件
ジョイセフブログ:218件
直リンク:632件
その他:561件



集計期間:2014/3/31～2014/7/8(募集開始日～最終日翌日、100日間)
集計対象:GmGC関連の全ページ

facebook内では…

募集時の投稿



いいね! 250件
8,016人にリーチ

開催時の投稿(最大)



いいね! 91件
2,060人にリーチ



その他、打ち合わせ時の様子なども投稿

講師よりコメント

- ★カリキュラム自体からは知る→考える→行動する、のサイクルが明確でとてもよいと思いました。
- ★女の子のエンパワーメントを主眼においた実用的なプログラム。講座を受けた女性たちがすぐに日常生活に活用できたり、中長期的な物の考え方や物事の判断の仕方に実践的に活用していける、貴重な学びのプログラムだと思います。
- ★受講生間のコミュニケーションや、ジョイセフスタッフ、講師たちとの交流をととても積極的にしているのも良いなと思いました。
- ★「実践」が組み込まれているのがとても良いと思いました。その「実践」の方法が広がると今後の発展性があるのではと感じました。
- ★GIRL meets GIRLの実験場、実践の場として機能しているなと思いました。
- ★全体としてとても学びやすい、毎回受講したくなる構成でした。
- ★女性が安心して学べる場。多様な女性が学べる。
- ★ジョイセフならではの切り口で講師陣がバラエティに富んでいた。

おわりに

すべての女の子たちは、可能性にあふれている

私たちがGIRL meets GIRLプロジェクトをはじめたのは、2011年3月。
そのときはまだ20代で、自分のことで頭がいっぱい。
実はメンバーの誰ひとりとして「社会貢献」をしたことがありませんでした。
社会貢献ってどういうことなのか、イメージすらできませんでした。
そんな私たちがこのプロジェクトをはじめてジョイセフのみなさんと出会い、
タンザニアの女の子たちと出会えたことで、私たちの世界は180度変わりました。

これまで「支援対象者」として見ていた女の子たちが、
実は日本の女の子たちより大きな夢をもっていたこと。
物質的には豊かなはずの日本の女の子たちが、
実はたくさんの悩みを抱えていたこと。
ただ想像するのと、実際にその場所に行き肌で感じるのでは
大きく違うのだということを実感させられました。

私たち自身がそうであったように、
出会いによって未来は大きく変わります。
女の子たちの専門家であるみなさんが
このようにチャンスや場所をつくってくださることで
女の子たちの未来が大きく広がることを確信しています。

若い女の子たちにとっても
「社会貢献」というと難しく感じるかもしれませんが、
あたらしい世界を知ること、あたらしい自分に出会えることの楽しさを
感じてもらえる場になるとうれしいです。
後期でも、若い女の子たちの様々な可能性に出会えるのを
心から楽しみにしています。



GAL LABO

電通ギャルラボ
(写真左から)外崎郁美、間野麗、小川愛世

